

エンジニアと二刀流



ENEOS 株式会社 常務執行役員

木村 裕之
Hiroyuki Kimura

2023 年も MLB は大谷翔平選手の活躍で大いに盛り上がり、彼の動向から目が離せない日々が続きました。打率 3 割、44 本塁打。投手としても 10 勝を挙げる素晴らしい成績でシーズンを終えました。少年野球では投手で 4 番は決して珍しくないのですが、長じてハイレベルな選手がひしめくチームでプレーするにつれて、専門の投手・野手、そして DH となっていくのも当然ではあります。しかし、そんな流れをものともせず代名詞の二刀流で結果を出している大谷選手は、忘れられつつある少年のあこがれを体現して余りあるものですね。そのようなことを考えながら、安全への取組とエンジニアリングについて想いを馳せたことでした。

私はプロセスエンジニアとして設備担当と机を並べ、プラント新設・改造の仕事をする機会に多く恵まれました。その中で安全設計に関する検討は、例えば安全弁関係で様々なシナリオにおけるプロセス挙動を同定したり、超高压冷却器の冷却水側設計圧力をどう設定すべきか社内外の知見や意見を聞きながら考えたりと（私にとっては）難しくも面白いものでした。特に印象深かったのは、有毒ガスの溶け込んだ液を安全に採取するため操

作手数の非常に多い設備を設計した際、運転の方から「こんなの面倒でとても使えない」と、そっぽを向かれ設計しなおしたことです。「煩雑すぎる作業を要するものは使ってもらえないか、長続きしない」と思い知らされ、セイフティエンジニアリング（SE）には「人間工学」的な要素も必須であると、その後の検討の大きな考慮点となりました。

このように SE はプロセス・設備等一つの専門技術のみならず、法・作業環境、さらには人間工学の知識・技術を総動員して検討することが必要な（まさに二刀流・三刀流のような）エンジニア冥利に尽きる分野と感じています。もちろん一人がすべての技術を身に着ける必要はありませんが、知見の幅を広げつつ、専門家の技術を集約しながら安全で高効率なプラントを実現する。そんな楽しみをもって携わってくださる方が益々増えていけば、我が国の産業の安全と発展にも更に素晴らしい盛り上がりができるのではないかと思います。

私は一刀流もままならなかった半端ものですが、大谷選手の二刀流の活躍から、こんなことに想いを馳せた秋のひとつときでした（ちょっと無理筋ではありますが・・・）。

公益財団法人総合安全工学研究所 理事・監事

理事長 田村 昌三 東京大学名誉教授
専務理事 中村 順 (公財)総合安全工学研究所
常務理事 新井 充 東京大学名誉教授
常務理事 福富 洋志 大阪大学特任教授
理事 小川 輝繁 横浜国立大学名誉教授
理事 高木 伸夫 システム安全研究所

理事 谷 質生 日油技研工業(株)川越工場長
理事 三宅 淳巳 横浜国立大学教授
理事 安原 洋 東京大学名誉教授
理事 若倉 正英 (特非)保安力向上センター常務理事
監事 河野 晴行 (公社)日本煙火協会専務理事
監事 田中 保正 元(一社)日本芳香族工業会専務理事